

# 明朝 はい!よろこんで!!

2019.May vol.51 今治市倫理法人会会報紙  
愛媛県今治市倫理法人会 (事務局) 〒793-0003 愛媛県西条市  
西ひうち 6-12 TEL 0897-56-1930 FAX 0897-56-1986  
井門師範による書

## Special Edition 倫理経営講演会特集

### 倫理経営講演会に110名!



宗勝文氏による事業体験報告 「恩の遡源で亡き父にほめられ、撤退の決断ができました」

4月23日(火)18:30より今治市倫理法人会主催 平成31年度倫理経営講演会「大転換の時代～岐路に立つ～」が今治国際ホテルにて開催されました。最初に豊後高田市準倫理法人会 幹事で有限会社 宗印刷所 代表取締役 宗 勝文(そうかつふみ)氏による、テーマ「心を決める～亡き父の言葉～」の事業体験報告がありました。

1959年豊後高田市生まれ。人口2万3千人の小さな街だが、「住みたい田舎」ランキングで全国初となる4年連続ベスト3に選ばれた。移住する人も増えている。商店街を歩いても犬や猫にしか会わないようなところだったが、「昭和の町」として売り出して、年間40万人の観光客が来るようになった。19歳で家業の印刷業を継いだ。20歳の時にボウリング場でナンパしたのが今の奥さん。娯楽が少ない街なので、2男2女の子どもが4人(笑)。従業員は20人程の小さな印刷会社で仕事をしている。

入会したきっかけは「豊後高田市倫理法人会を立ち上げるのでチラシを印刷してほしい」と依頼されたこと。設立まで2週間しかない。間に合わないと思ったが打ち合わせに行った。なかなか原稿をくれない。「1カ所だけ原稿ができてない。会長のあいさつ

酔ってるわけではありません。ブレイクダンスを披露する井門健人さん

「うまいねえ」「重松さんのおやしギャグには負けますよ」「そう?やっぱ!」笑顔の重松相談役と苦い表情の井門師範

文だ」と言う。「あんたが書いて、ついでにそこにあんたの写真を入れろ」「はあ?私が会長?無理むり」絶対にならないと断ったが、次の一言がグサツと心に刺さった。「売上げはどうなんだ?」「よくないです。社員の働きが悪いから」と言ったら「あんたはそれだけのもの。あんたが変わらないと会社は変わらない。倫理に入ると会社が変わる」。2時間監禁・説得されて会長を受けた(笑)。

弊社は1910年、祖父が創業した。父が継いでいたが、私が生まれて100日目に心臓マヒで亡くなった。27歳だった。まったく記憶にない。成長する中、周りから「あんたがかわいそう。お父さんは勉強家で将来は地域を背負って立つ人だった」と言われ、自信を持つようになった。母の記憶は私が3・4歳の頃のもので、お寺の参道を女の人が歩いていて、何度も振り返りながら泣いていた。何かの事情で離縁したのだろう。私を置いて行ったつらさは今はわかる。母とはそれっきり。父亡き後は祖父母に育てられた。

ここで佐藤会長が登場する。私が望んでもないのに倫理指導をして「母の肩をもめ」と言う。会う度に言う。1年位、嫌で仕方がなかった。母は大阪に住んでいた。母の弟が亡くなり、会いに行ったら、おばあさんになっていた。葬儀の後、母に「肩をもんでいいか?」「いいよ。息子から肩をもまれるのは初めてだなあ」と言われた。葬儀を済ませて帰って来たら、佐藤会長が「大阪に会いに行け」と言う。しつこく言われるので、父の命日に会いに行った。4階建てのアパートの3階に住んでいた。ドアを開けたら「誰?」みたいな顔をした。私だとわかって喜んでくれた。「食事をしにカラオケ喫茶に行こう」と言う。昼間からスナックのようなところでみんなで歌っていた。酒を飲みながら母とカウンターで座っていた。じっと私を見て涙を流している。「いいお母さんでなくてごめんね」その瞬間、涙があふれて「産んでくれてありがとう!」と二人で泣き合った。佐藤会長はこれを味わわせたかったのだとわかった。

数年前、情報誌の仕事を上上げた。創刊号は少しのマイナス、続ければプラスになると信じてがんばっていたが一向によくない。赤字が続き倒産の危機の時に富士研修所に誘われた。恩の遡源の研修で瞑想をした。祖父母がニコッと笑っていた。メガネをかけた人から「ようがんばってる」と言われた。父だと思った。帰宅して妻に「情報誌をやめる」と言う。「もう金策しなくて済む」と喜んでくれた。妻に多大な苦勞をかけていたことを知った。



満員の会場。110名の参加でした



西原会員の「乾杯!」で宴がスタート



井門会員の書道パフォーマンスに大勢の観客が



「上げ潮じゃ〜!」の3本締め。アホらし

## Special Edition & Member's Introduction 特集&会員企業様紹介



柳下文寛氏

### 「奥さんの言うことは聞いていますか?」

続いて柳下文寛氏による「大転換の時代～岐路に立つ～」の講演が行なわれました。

倫理の土台は夫婦。『妻のトリセツ』という本が売れているが、妻が嫌いな言葉の第1位は「今日何してたの?」「何もしてなかったんだろ」という責め心がある。女性は共感したいという思いがある。まず合わせる。合わせるしかない。あきらめてください。千葉のAさん。美容室を2店舗経営していたが、1店を閉めて、もう1店も閉めようかという時に倫理指導を受けた。「奥さんの言うことは聞いていますか?」「はあ?」意味がわからなかった。「そこそこです」「だからダメなんです。奥さんから『あの人を殺したい』と言われれば、『一緒に行くよ』というくらい聞きなさい」。その後、家事を手伝ううちに社員とのコミュニケーションも変わっていき、売上げが4倍となり元の2店舗に戻った。

懇親会が西原会員の「乾杯!」で20:30からスタート。倫友同士、グラスを重ね合い会話に花を咲かせました。10分後、井門ジュニア健人さんによるブレイクダンスが披露されると、やんやの喝采で会場はヒートアップ!続いて井門会員(父)による書道パフ



### 「34年間で振り返って」 日浅 衛氏 Hiasa Mamoru (ソニー生命保険株式会社)

2017年12月に高知倫理法人会に入会して、2018年9月に今治市に移籍した。ソニー生命 松山支店に所属している。いい仕事を選んだと思っている。松山に週2回行っている。住まいは高知。妻と8歳の長女と3歳の長男と今は仲よく暮らしている。

小さい頃から野球しかしてなかった。31歳までやっていた。サッカーがやりたかったが、父の猛反対にあった。小中高と野球をやった。父が今治西高野球部のOBで今治西で野球をすることを望んでいた。勉強もがんばったが、野球推薦の話もなかった。父は「勉強で行け」と言う。「逃げる人生だけは歩んでほしくない」という父の想いは後で聞いた。感謝しているが、推薦で入った(笑)。

高校に入ってどんな世界かなと思った。当時の監督は宇佐美(秀文)監督。「今までで最強のメンバーが揃った。甲子園ベスト4は間違いない」言われたが、一度も甲子園に行けなかった(笑)。いまだに悔しくて「どうして行けなかったのか」今でも振り返ることがある。監督が常々言っていたのは「野球部員の前に、立派は高校生であれ」。

今はないと思うが、野球部の厳しい面はたくさんあった。上下関係は倫理も理屈も何もない世界。理不尽が当たり前。何をすることも先輩から言いがかりを付けられる。相撲で言うところの「かわいがり」。1年生が悪いことをしていないか?女生徒と話すのは御法度。夜9時から0時を越してかわいがられ、帰宅したのが1時ということもあった。母が起きて待っていてくれて「何をしてたん?」と聞かれた。そういう経験をしたのでどんなことにも耐えられる自信が持てた。3年生の夏の県大会で愛媛の代表メンバーに選ばれた。

オーマンスが始まると参加者が囲み、期待と注目を集めました。「令和」「明朝」「愛和」「喜働」をそれぞれ違った書体で一気書き上げると、割れんばかりの拍手が。その後は美味しい食事に舌鼓を打ちつつ、懇親を深めました。

最後の締めには光藤相談役が登場。会場からのお酌と「みつつふじ!」コールに、会場は温まらない中、本人は一気にハイテンションに。「今日の倫理講演会は素晴らしかった。図書紹介さえなければ」などと暴言を吐きまくり、しらせ鳥が飛び始めた頃、「最後は土佐の3本締めで締めたと思います。『上げ潮じゃあ!』のかけ声で腰を落としてせり上がり、万歳をします。ではいきますよー、よー、上げ潮じゃあ!上げ潮じゃあ!上げ潮じゃあ!」参加者は「なんじゃあ?」の半信半疑の表情、腰を落としたまま立ち上がれない人も。なんとか締めましたが、高知在住の日浅会員は「こんな3本締め、聞いたことがない」。1年に1度の倫理経営講演会の名残り惜しい夜は、ゆっくりとふけていきました。懇親会は69名の参加がありました。

「上げ潮じゃ!」「飲み過ぎじゃ!」



大学でも野球を続けたが「レベルが違う」と感じた。木のバットに対応することができなくなって、自分を見失った。腱鞘炎にもなり2年間活動できなかった。卒業時にバナソニックに誘われたが「四国銀行にも野球部がある」と友達に言われ、就職した。全国で銀行がチームを持っているのは2行だけ。3年間やってみたら辞めようと思っていた。月・金は仕事、火・水・木は仕事と野球が半々。土・日は練習か試合。しんどい時期だったが仕事の基本を教わった。感謝している。四国銀行で野球をやっていたヒザを壊した。代打では結果を残せたが、そんな時にソニー生命に興味を持った。チャレンジしてみたいと思ったが、辞めると言えない雰囲気。2年間悶々としながら準備していた。この世界はヘッドハンティング。松山支店に入社させてもらった。

最初の3年間は土台づくり。下の子が生まれた時に転職したが、お客様との関係作りで時間を割くことが多かった。妻は「仕事をやってくれ」。常に言い争いをしていた。それを飲み会でのりさん(越智紀方さん)にぼやいたら「嫁さんに感謝しているか?感謝を伝えているか?お前の態度や口調がいかんのや、直しなさい。ハグしなさい」言われるままにハグしたが、無反応だった(笑)。下の子を妊娠している時に転職を切り出したが、反対された。私がどこにいるのかわからないのが、不安に思うところもあったと思う。一昨年の年末に家を出て行かれてから気づいた。高知市倫理法人会に入会したその日にラインで「しばらく帰りません。一人でやってください」と連絡が来た。私達の仕事はお客様のライフプランを設計することなのに、自分のことができていない(笑)。この会社は離婚している人が多い。お客様に合わせるので嫁さんに捨てられる(笑)。

妻が戻って来てくれてからはうまくいっている。今は妻の言うことを聞き過ぎているくらいと思っている。「土日は仕事せんといて」「倫理にも行かんといて」と言われる。松山に週2回通っているが、高知のお客様に合わせるのも難しくなっている。今治のお客様もいるがなかなか来られない。後何年かするとクリアできると思う。そうすると今治市倫理法人会にももっと参加できると思う。ご期待ください。